

野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫措置の 具体化に関する緊急実証研究について(RS事業)



畜産研究部門 動物行動管理研究領域
動物行動管理グループ 上級研究員 平田 滋樹

NARO

欧州におけるASF対策の事例（探索・回収）



森林（林縁および湖沼を含む）での
イノシシ死体の探索

Dr. Paulius Bušauskas, Lithuanian State Food and Veterinary Service



湖沼でのイノシシ死体の回収
（ボートを使用した探索と回収）

Dr. Paulius Bušauskas, Lithuanian State Food and Veterinary Service



森林でのイノシシ死体の回収と搬出

イノシシの生息環境の違い



欧州の特徴

- 森林率が20%程度
- 丘陵地域が多い
- 森林整備が進んでおり森林構造、森林構成がやや単調



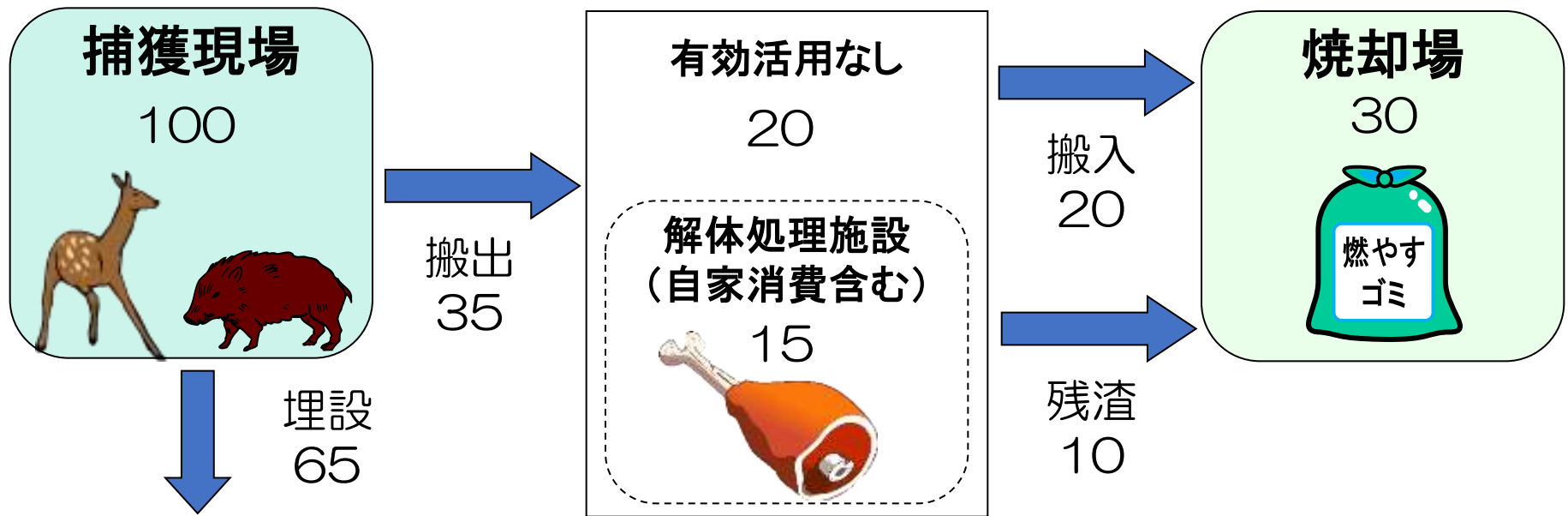
日本の特徴

- 森林率が約68%
- 高標高地域も地域多く地形が複雑（傾斜地も多い）
- 欧州にはないササやタケなども含めて森林構造が複雑

海外事例の収集や海外との連携、特に条件の似た国や地域との連携が重要

▶ **地形、気候、植生、土地利用、そして森林率などが異なる**

捕獲個体の最終的な処理方法のフロー図



■現状

- 捕獲個体の65%が埋設処分されている
- 食肉等有効活用される個体は約15%
(実質5%程度が有効活用部分)
- 資源化されていない部分が95%程度
(個体数ベースでは85%)

▶ ジビエ利用が拡大したものの山林での埋設が多い状況

イノシシの死体の適正処理における課題

捕獲個体の処分の不適切事例

捕獲個体による野生鳥獣の誘引
(イノシシ等による死体の掘起しと死体との接触)

処分困った？駆除イノシシ20頭、不法投棄容疑で書類送検
伊万里

2017/11/25(土) 10:58配信

佐賀新聞

駆除したイノシシ約20頭を伊万里市の山中に捨てたとして、伊万里市は廃棄物処理法違反（不法投棄）の疑いで、市内の男性（69）を佐賀地検北支部に書類送検した。「捨てる場所がなかった」と話しているという。イノシシの増加に伴い駆除数も増加傾向にあり、関係者が処分に困っている側面もありそうだ。

書類送検は8日付で、イノシシ約20頭の死骸を10月、市内の山中に不法投棄した疑い。現場付近を巡回していた駐在所の警察官が、異臭に気付いたという。

伊万里市などによると、男性は県猟友会に所属し、イノシシの成熟1頭につき1万3千円の報奨金を受け取る申請を市にしていた。提出用の耳や尾を切り取った後、死骸を捨てていた。鳥獣を駆除した場合、所有者の許可を得た土地に埋却する必要がある。

市によると、県猟友会伊万里支部には約100人が所属。例年3500頭前後を駆除。2016年度は4500頭に上った。駆除数が増加傾向にあるため専用の処分場の設置を求める声も出ている。

市農業協同組合は「猟友会の協力がいなければイノシシを減らすことはできない。市の幹部には、適切に処理するよう周知を図ってもらっている」と話している。

（佐賀新聞 2017.11.25）



4 ▶ 妥当かつ現実的な適正処理方法の確立が必要

ASF対策の具体化について（研究の構成）

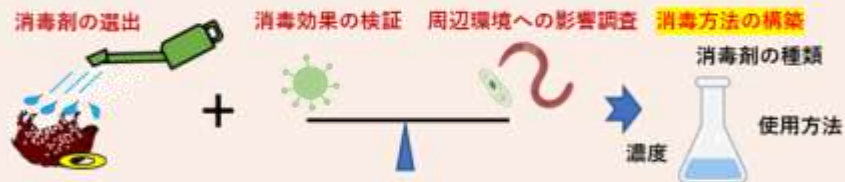
① 野生イノシシの適正な死体処理方法の開発

①-1 防疫作業（採材、死体処理）の妥当性、実現性等の評価検証

山林内での作業者の行動調査 イノシシの死体処理方法の検討 適正な死体処理方法の確立



①-2 野生イノシシの死体処理における消毒方法の開発実証



①-3 野生イノシシの死体処理における包埋方法の開発実証



② ASF・CSFの採材手法および高感度検査方法の実証

②-1 ASF・CSFの採材手法の確立およびウイルスの残存性の検証



②-2 ASF・CSFの高感度検査方法の開発実証および普及手法の検討



農林水産省 令和5年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち短期課題解決型研究「野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫措置の具体化に関する緊急実証研究」で実施中

▶ 現在、自治体や猟友会等の協力のもと実施中



包埋用シート、消毒剤の影響



2024/01/29 22:04:07

7 ▶ 探索行動にも差異が生じている可能性あり



24.11.20

SG06



24.11.20

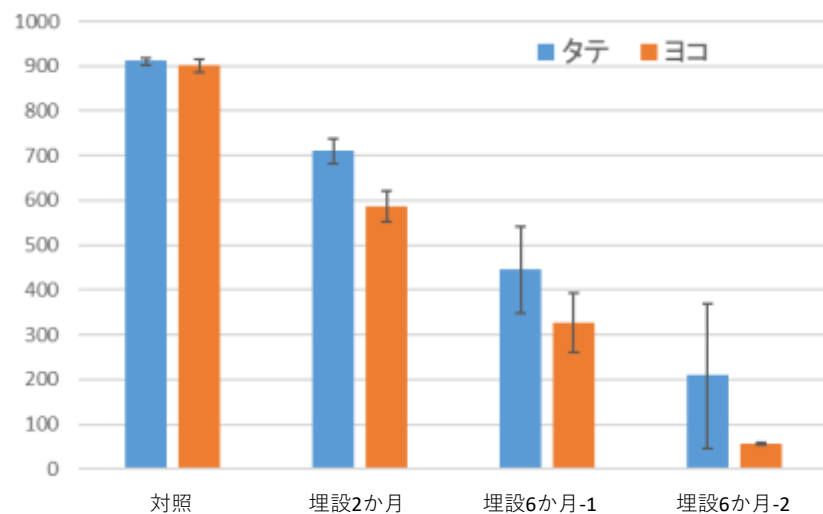
SG04



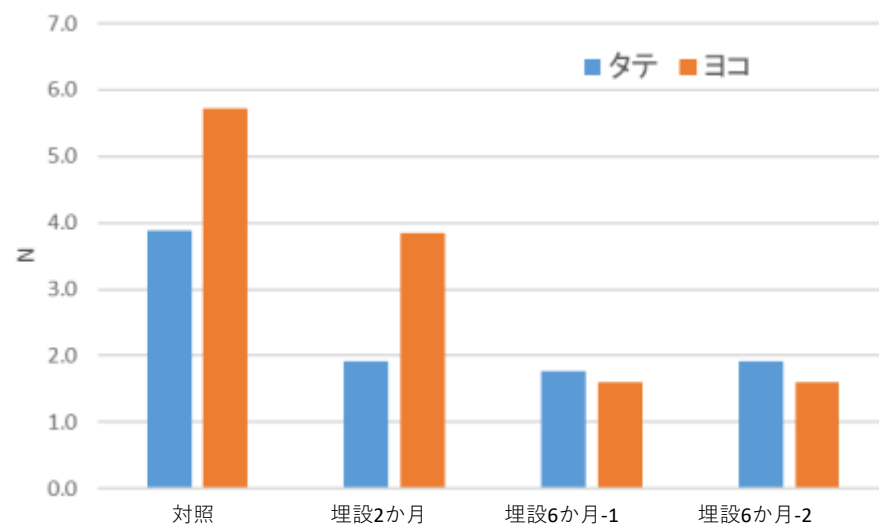
生分解性シートの加水分解の進行状況

生分解性シートの加水分解による変性の評価方法

- ① 引張伸びの低下＝シートが硬くなり崩壊しやすくなる
- ② 引裂強度（エルメンドルフ引裂法）の低下＝シートが裂けやすい状態



左図：生分解性シートの埋設による引張伸びの変化



右図：生分解性シートの埋設による引裂強度の変化

- 引張伸び、引裂強度ともに経時で低下がみられた
⇒ 外観の変化は小さいが、時間経過に伴い加水分解は進んでいる
- 環境により（同じ地域であっても）引張伸びで差がみられた
⇒ 気温、降雨量、土壌性質、日光照射量等の外部要因により生分解進行に差が生じる可能性がある
(アキレス株式会社 担当分)

具体的な死体処理方法の検証



埋置場所の整地等準備



生分解性シートの準備

- ・位置決め
- ・縛るための紐等の準備



死体安置と消毒

- ・斜面上から下方におろすように配置
- ・口や排泄口などは特に消毒



シートによる包埋

- ・体液漏れを防ぐために下側からシートを折りたたむ



シートによる包埋

- ・次の体液漏れ防止のため、側面を折りたたむ



シートに包埋した死体を縛る

- ・頸部と後脚前の腹部等だとズレにくい



包埋した死体と周辺の消毒



死体の埋土作業等

- ・掘起し防止措置
- ・死体の持ち出され措置